

【MedTec Forum】 2 回生フレッシュマンセミナー

二 宮 治 彦 (人間総合科学研究科 先端応用医学専攻 / 臨床医学系)

2回生フレッシュマンセミナー(総合科目 B)はE&F クラス合同で行われた。本年度のフレッシュマンセミナーの内容については、私も長田先生も試行錯誤で行ったのが実情だが、以下、私が担当した部分の概要と感想を記す。

長田先生は、科学雑誌(英語)の講読を行ったと伺っている。また、島田雅晴先生には「如何に英語を勉強するか」について1コマお話し頂いた。

英語は科学を学ぶ者、国際化された現代の日本社会&国際社会で生きる者にとって、必須のアイテムである。かつて、また現在も引き続き悩んでいる私が言うのだから間違いない。若い頭脳のうちに上達されることを是非お勧めする。英語と同様、又はそれ以上に大事なアイテムは日本語である。特に科学的な内容を扱った「仕事としての」文書の作成について、木下是雄著「理科系の作文技術」(中公新書)を参考書に、1コマのレクチュアをさせて頂いた。「科学的内容の」、「仕事としての」文書を日本語で作成するには基本的には英文としての発想と技術が求められる…といった内容である。「明確」「簡潔」「論理的」「誤解を与えない」といったキーワードがみえてくる。昨年度、浦山先生はこの参考書を素に「事実」と「意見」について話されたということを参考にしてこの講義を設定してみた。この文献をじっくり読んだからといって立派なレポートや論文が必ず書けるというわけでもないのだろうが、将来、思い返すこともあるだろう…多分。

科学論文を書くときに最も大事なことはきれいな材料を揃えることだが、その素材を如何に料理するかということも大事である。いわゆる議論(Discussion)である。論ずべきテーマを見出し、事実を論理的に提示し、自身の意見をまとめ上げ、他人に向かって議論を展開する能力や姿勢が、今後「科学」を仕事としていく皆さんには求められている。

科学的な内容を議論するのは学類一年生は早すぎるのと思われたので、一般的な小説を題材に背景にある社会的・道徳的問題点の抽出と議論の展開を「輪読」形式でお願いした。「アルジャーノンに花束を」(ダニエル・キイス著)を材料にした。こちらの意図とは違って、多くの学生が参加する輪読と

いう結果には至らず、明確な問題意識を持ってセミナーで論議が交わされなかったのは残念だった。こういった状況でセミナーをやってみて問題だと感じたのは、他人の意見を傾聴する姿勢に欠ける学生がかなりいること、自分の意見を全く言えない(意見がないのかもしれない)学生もまた存在することである。ないのだから仕方ないでしょ…といった具合だ。怒ったり叱ったりする内容ではないのだろうが…これが大学生か?もしかして“筑波大学”の!? 雑談に興じる者、携帯(電話)をさわる者、…。大学(生)なのだからという意識が私には少なからずあって、18才を過ぎた諸君に説教などしたくないと思いつつ…時に、「静かにするように」などと叫びながら、フレッシュマンセミナーを終えるたびに力がぬけました。やるときはやってほしい!このままチャーリーとしてやり過ごすことはできないだよ、君たちは、…などと思いつつも、学期末を迎えてしまい学生諸君にはレポートを出して頂くことにした。セミナーで話題になったテーマから、

「病院の待ち時間を短くするための私のアイデア」、「なぜ、人間社会からいじめはなくなるのか」、「ヒトの改造はどこまで許されるのか:整形手術、臓器移植、遺伝子治療、遺伝子改変、クローン人間…」の中からテーマを選んでレポートしてもらった。以下、ジャーナルへの掲載を承諾してくれた学生のレポートから一部を紹介する。

テーマ (後藤佑斗): …病院の受付で病院外でも呼び出しに応じられるポケベルをもらって、あとは外で時間をつぶします。…徒歩圏内に公園、大型商業施設、カフェなどの街造りをする。…ロビーで2時間以上待たされるよりはずっとよいと思います。

テーマ (西川史人): …結局、人間が弱いからだ。人は誰か一人をいじめたり、仲間はずれにしたり、陰で悪口を言うことによって、そのグループでまとまる。…社会がまとまるために手っ取り早い手段がイジメだと思う。弱く、情けなく、友達つきあいが下手な証拠のようなものだ。…本当の楽しみがわかる人しかいなければ、この世界にイジメはなくなるだろう。…周りからイジメがなくなるように努力したい。

テーマ (藤田啓太): …文明がどんどん進歩するにつれて身分の差は広がると思うし、それにつれてイジメも増えることは必然だと思う。…それは外からのことであって、内から、つまり心からみれば、身分の差なんて存在しない、心に上下関係なんてないと思う。心に共通に「イジメは悪い」という気持ちがあれば、イジメは少なくなると思う。…いじめっ子と呼ばれる人たちは初めから誰かを傷つける人だったわけではないし、陰で笑っている様な人はいないと思った。誰かを傷つけている人は、実はどこか別のところで同じように傷ついている人ではないかと思う。いじめ人も実は弱い人なんだと思った。…お互いにそういう深いところを知ることができればイジメはなくなると思う。

テーマ (今井敬子): 中立の立場の人間が無関心だからだ。そもそもイジメは個人と個人の争いであるものに、集団が一方につくことで起こるものだ。…中立の子が「無関心」の加害者となっていく。解決策は、…数的に最も多いと考えられるこれらの子供達が、個人の争いの真ん中に立って当事者を冷静にみるのがイジメをなくす第一歩であり…役割を負うべきだと思う。

テーマ (橋本奈那): …重要なのはその目的だと思う。臓器移植はまさに患者の命を救うために行われることなので実行するのがよいと思う。しかし、遺伝子治療、遺伝子改変はそれで一人の患者の命が救われるのは喜ばしいことだが、…遺伝子を変化させることは人工的に手を加えた DNA を子孫に残すことになる。…一歩間違えるととんでもない生物が生まれかねない。…生物の DNA は長い時間かかって環境に応じて少しずつ変化し代々受け継がれてきた。それを今この瞬間一気に変えてしまうのは、患者の命を考える以前に、一つのヒトという生物としてしてはならないことだと思えて仕方がないのだ。しかし、自分の身内や知り合いが遺伝子治療によって治る病気だと医者から言われれば迷わず治療を願い出るだろう。…

テーマ (森幸太郎): …美容整形で自分の顔にメスを入れて形を変える時点で「自分」というものを失ってしまう気がする。…その人のその身体はその人の所有物なのだろうか。人が「もつ」ことのできるもの、あるいは「所有」することのできるものは、*ガブリエル・マルセル(*註:フランスの哲人)によると、その人にとって何らかの意味で(外)にあるものであり、その人の外部にあって独立した存在をもっているものである、という。だが、この(外)ということがかなり難しい。…。現代の「所有」観は、人間の力で再生産できないようなものの自由な扱いを

許さなくなっている。身体もまさにそのようなものである。…私たちは身体を守り育てていかなければならないと思う。

テーマ (長井 蘭): 次世代に残らない、つまり生殖に影響しない改造ならば許されると思う。たとえば整形手術は全く次世代に影響しない。…顔の一部を少し変えたいと思うのは個人の自由だし、体は自分のものだし、周りがとやかく言う問題ではない。…次に、生殖に影響してしまう改造を考えてみる。たとえば遺伝子改変である。生まれてくる子供を自分の望み通りにするために遺伝子を改変することは、未知の世界であり、幾世代も後の影響を予測することは不可能である。…むやみに遺伝子に手を加えてはならないと思う。…。人間が人間に手を加える行為は悪いことばかりではない。移植医療など人間が生き延びる上で必要なこともある。一世代限りにとどまる改造は許されると思う。

テーマ (山室拓也): 整形手術が医師によって行われることに私は疑問を感じる。そもそも医師は病を治すことが仕事である。…すべての人がより美しい顔や体を簡単に手に入れることができるような時代が訪れたらどうなるだろうか。…自分らしさという主体性を失った人々が多く生まれ、さらに貪欲な美への追求により歯止めのきかない事態になるだろう。医師は科学技術に振り回されることなく治療が必要な人々を1人でも多く助けるべきであると私は考える。

ここでの紹介は許されなかったが、ほかの学生諸君も、時間とテーマが与えられるとなかなかいいレポートを書いてきた。当たり前ながら、同じテーマでも視点がそれぞれに違って興味深い。プレゼンは慣れの問題もあるので、今後場数を踏んで鍛えられれば上達するのもかもしれない。普段から少し深く考えることを習慣にして4年間を過ごして欲しい。4年後に「卒業研究」をまとめるときにはどんなプレゼンをしてくれるのか楽しみにしている。